複数のテキストの論述の仕方を比較して，説得力を評価する

第３学年　国語科学習指導案

１　単元名　　立場・考え方をとらえる　（７月中旬）

２　用いる教材　「メディア・リテラシー」（三省堂）・「メディア社会を生きる」（光村図書）

３　単元のねらい

○　複数の文章において，それぞれの立場や対象を比較することを通して，それぞれの文章の不足している点や主張のよい点を評価するとともに，メディアに対しての自分の立場・考え方を述べることができる。

【言語活動】

○　論説や報道などに盛り込まれた情報を比較して読むこと。

４　指導計画（全４時間）

第一次	１時間目	生徒に人気のあるテレビドラマを視聴した後，感想を書く。そのドラマについて批判的な評論を示し，評論に対して感想を書く。
第二次	１時間目	前時の振り返りから，自分の考えをもつことの必要性・多様な見方が必要であることなどを知り，「メディア・リテラシー」と「メディア社会を生きる」を通読し，それぞれの内容を確認する。
	２時間目	「メディア・リテラシー」と「メディア社会を生きる」を「論理的・論理が飛躍している」「根拠が具体的・あいまい」の二つの視点でマトリックスに位置づける。その際，根拠となる表現をあげる。
	３時間目	マトリックスを基に，各教材文の不足している部分をあげる。

５　指導の構想

多様な立場や考え方を踏まえて自分の考え方を作り上げていくことは，自分の言語生活を豊かにしたり，広げたりする上で必要なことである。しかしながら，生徒を取り巻く情報化社会は，生徒を情報に対して受動傾向にしてしまうことがある。したがって，多様な考え方を踏まえながら自分の考え方を作り上げる必要性とともに練習，演習を行っていくことが必要である。

そこで，複数の価値観に知的好奇心を喚起する段階，複数の文章を比較検討し評価する練習を行う段階，ここまでに学んだことを実際に社会で報じられている新聞記事で使えるかを確かめる段階の三段階の教材構成とする。

具体的には，まず，生徒にとって一つの価値観しかないと思いがちなことにも複数の価値観が存在することを体験させることで，多様な立場や考え方を認識することに知的好奇心を喚起させ，それぞれの立場を比較することや自分の考えを持つことの目的意識を醸成する。

次に，比較検討の仕方を学ばせる。その際，多様な検討をすることができるようにするために次の手立てを講じる。

①同じテーマを取り扱った教材文を示す。
②複数の視点を与え，マトリックスで比較することと，教材文の表現を基に比較させることとする。＜習得段階＞
③それぞれの教材文の主張をとらえた上で，主張に不足している根拠や説明を考察する。＜活用段階＞

最後に，ここまでに学んだことが使えるかどうかを確かめるとともに，自分の考えをもつために，実際の新聞の記事の書き方を比較検討してマトリックスに位置づける。

６　本時の指導

(1) 本時のねらい（３／４時間目）

「メディア・リテラシー」と「メディア社会を生きる」を「論理的・論理が飛躍している」「根拠が具体的・あいまい」の二つの視点で位置づけられたマトリックスから，それぞれの教材に対する反論を挙げ，それに対するために必要な根拠や説明を挙げることができる。

(2) 展開

教師の働き掛け	学習活動と予想される反応	評価と留意点
説明　「前時は，それぞれの教材をマトリックスに位置づけました。しかし，位置づけただけでは，まだ情報に対して受け身でしかありません。それぞれの情報に何が不足なのかを見つけてこそ，自分の考えが出せます。」 指示「マトリックスを基に，教材文のウィークポイントの箇所をマーカーで印をつけ，どのような点が問題なのか書きこみなさい。教材はどちらでもかまいません。書いたら，その内容をクラスの仲間から検討してもらいなさい。」 （思考力・判断力を育成する）	＜「メディア社会を生きる」を選んだ生徒＞ ・具体例が一般的なことばかりで，筆者の体験や読者に訴える体験ではない。(「メディア・リテラシー」は筆者の体験に基づいている) ・同じことを表現しても，メディアによって，印象が異なるとあるが，具体的な例がなく説得力がない。 ・メディアを読むことと書くことは環をなしているとあるが，具体的な根拠がない。など ＜「メディア・リテラシー」を選んだ生徒＞ ・ニュースが伝える「現実」とは何か，という疑問は，こうしてメディア・リテラシーと結びついたのだった。のように，「こうして」「そうすることで」などの指示語が使われているが，指している内容が不明確である。など	・前時に作り上げたマトリックスを模造紙やプロジェクタで拡大提示する。 ・本当にウィークポイントになるかどうかについて，仲間の検討では，検討した者の責任をもたせる工夫を行うとよい。 ◇比較をした視点から文章を評価することができる。
指示「それぞれの問題点を解決するには，どのような書き方をすればよかったかを提案しなさい。その際には，自分の考える文章のウィークポイントも述べなさい。」 （表現力を育成する） 指示「今日の授業で，自分は情報を主体的に読み取ることができるようになったかを振り返りなさい。」	・情報の読み取りについて，自分の様子を記入する。	◇具体的な根拠に基づくことができる。 ◇主体的に情報を読み取ることができるようになりたいと書くことができる。